

新宮山彦ぐるーぷ第1992回

### 行仙宿・東側犬走りコンクリート再舗装と

### 台風21号後の南奥駆道(俱利伽羅岳く東屋岳)の点検整備

◇実施日：2018年09月16日(日)～17日(月・祝)

◇参加者：川島 功、生熊敏男。(1泊2日)

16日：沖崎吉信、瀧本昭太郎、佐藤優美子、斉藤和美。

17日：沖崎吉信、濱野兼吉、児嶋道夫、上村洋司・和美、

畑林清子、生熊千満子、大江徳子、山川治雄、中村佳

文、岩本信行、奥村順夫、竹中卓治、高階美根子、

梶野照雄、志岐 敬、今中三恵子。

9/16：6名、9/17：19名。 延25名。

9月16日(日) 曇り時々晴後晴

晴れた朝、沖崎宅を出発すべく7時過ぎに着くと、既に沖崎さんはバイク車で「道路確認のため上葛川からR225へ先行する」とのメモを残し既に出発されていなかった、

川島車で7時半走りだす。9時前の登山口には、沖崎・瀧本・

斉藤・久し振りの佐藤さんが到着し、支度を整えておられた。

私はモノレールへ食料品、ガソリン、チェンソーオイル、ザツ

クその他多少の物を積んで上がる。



登山口にて



行仙宿に到着



セメント練り



昼食懇談中



コンクリート練りと運搬



モルタルを塗って仕上作業

9時45分に行仙宿に到着、小屋前の気温は21℃。早速、瀧本・佐藤・斉藤さん3人は、水汲みと水場点検に降りられる。今日の作業は、予てから課題だった小屋東側軒下犬走りのコンクリート打ちである、前日に参加の連絡あった瀧本さん達が参加される事から、本日参加予定でなかった沖崎さんが、急遽我々二人の応援のために来て下さったのであった。

3人でコンクリートを練り始めるが、以前に運びこんでいた砂・バラスのお陰と水場から上がって来た3人の応援を得て何とかコンクリート再舗装が出来得た。一回に砂とバラスを一斗缶各2杯とセメント袋7分目を混ぜて練り合わせる。

午前中3回、大変な重労働である、

昼食、休憩をはさんで午後2回のコンクリート練りを行い、仕上げのモルタル1回強練った、私の計算ではコンクリートにして2550練り混ぜて、使ったセメント3俵(75kg)と砂約350kg、バラス約270kg、水約50kg使用したと思われる。

14時40分に犬走りコンクリート再舗装が終了し、道具の後片付けをする。日帰り4人は15時20分頃に下山された。



再舗装の犬走り

使用道具の後始末

日帰り者下山

宿泊の二人は、道具と周辺等の最後の後片付けを済ませる。

今日の来宿舎は、沖崎さんから宇都宮の男性一人を待つこととして夕食にするも、それまでに二人の男性(前鬼から入山の埼玉の70歳男性、山口県周南市の男性は楊枝の宿から来て水汲み)が先に来宿。宇都宮の男性は、浦向から歩いたが廃屋地点で増水した小谷を渡らずに真っ直ぐに柚道を辿り、迷いながらようやく林道に出て、行仙宿に着く事が出来たとやって来た。5人の夕食懇談が21時まで続いた。

### 行動タイム

8:50 補給路登山口9:05→9:50 行仙宿→11:40 昼食12:55→作業  
14:40→日帰り者下山15:20。

9月17日(月・祝) 晴時々曇り

山口県の男性は、3時半頃に金剛多和迄行くと出発、残り二人は6時前に玉置山へと出立。皆が登って来る間に、生熊は補給路の補修、川島氏は、荘川桜の金網支柱取替えとヘリポート付近の風倒木をチェーンソーで小切り薪作りをする。

### 車回送班

大江・奥村・生熊敏の車回送班3名は、南奥駆道の点検巡視班を見送った。点検巡視班が出発後、全毛布のたたみ直し収納、その後倉庫の整理(主にロープ類を昨日上げたコンテナに収納)。補給路の補修等行う。

倉庫と管理棟の戸締りをして3人は、笠捨山捲き道巡視班、俱利伽羅岳ピストン班の帰りを待たず、13時30分車回送に下山し、国道425号線の東屋岳登山口に14時30分に着き待機。東屋岳から下山した班と15時20分に合流する。

以上 記；生熊、写真；川島。

### 南奥駆道(行仙宿)俱利伽羅岳手前P)の点検巡視班

新宮組は沖崎車に生熊千、大江徳子、濱野、上村車に児嶋、畑林が同乗し7時前に出発。下北山村浦向から国道425号に入り登りはじめの右折する急カーブで、奥村車を捉え補給路登山口まで追走する。間もなく熊野市の山川さん、堺の梶野さん等が到着。

モノレールにザックやチェーンソー等を積み込む。山川さんから差し入れのミカンを各自ザック等に入れ登りはじめる。

私はいつものように水場で水を飲み後に続く。途中モノレールの終点でザックを背負い行仙宿小屋に向かう。途中補給路周辺の枝が鉄塔巡視路保守の方によりきれいに刈り揃えられ、随分歩くやすくなる。今日はザックだけなので順調良く歩け、小屋には45分で到着する。

昨日からコンクリート舗装作業の川島、生熊さんも待機していて、全員揃ったところで、沖崎さんより本日の行動指示がある。



南奥駆道点検巡視を3班で実施の説明

3班に分かれて、笠捨山を越えて東屋岳を目指し国道425号に下る沖崎・梶野班。旧通信道を廻って小屋に戻る山川班。そして行仙岳を越えて俱利伽羅岳に向かう川島・児嶋班。自動車で東屋岳からの下山者を回送する生熊、奥村、大江班に分かれる。

私は川島・児嶋・高階・竹中さんと俱利伽羅岳班に入り、帰りは行仙宿には戻らず、N.T.T巡視路を下って国道425号の白谷トンネル東口に下りて、倒木等の点検巡視をすることになる。

児嶋さんがチェーンソーを、私がトランシーバーを携え、奥駆道を行仙岳に向かって出発する。



行仙岳(白谷トンネル登山口迄)の倒木処理

20分ほど行くと倒木があり、児嶋さんがチェーンソーのエンジンをかけるがなかなかかからない。

プラグを外しガソリンの吸い込みがないか等調べるが、どうもうまく作動しないようである。児嶋さんは金曜日にはうまくエンジンがかかり大丈夫だと思っただけだったが、チェーンソーエンジンが言うことをきかない。とりあえず私のノコギリと竹中さんのノコギリで倒木を処理する。

行仙岳の山頂までは雑木の倒木が6本在り、チェーンソーを使うまでもなくノコギリで処理し1時間かかる。行仙岳から釈迦ヶ岳、五百羅漢の眺めが良く写真に納めるが、帰って確認すると何も写っていないガツカリ。



分岐から行仙岳山頂間の倒木処理

怒田ノ宿越えての倒木

怒田の宿跡に向かって下る。風による枝の切れ端があるが倒木は少なく、この周辺は風の道ではないらしい。竹中さんのノコギリはネジが外れ持ち手とノコギリの歯が外れてしまい使用できなくなる。児嶋さんはチェーンソーを捲き道分岐に置いて、奥駆道の要所々に赤のペイントマーカーで目印をつけて下さる。

川島、高階さんは、奥駆道に落ちた枝を払いながら進む。

怒田の宿を過ぎてても意外と倒木は少なく、落枝を除けながら辿り、俱利伽羅岳手前のピークで昼食となる。児嶋さんからコーヒーが振る舞われ、皆さんお菓子でくつろぐ



倒木処理後



俱利伽羅岳手前Pで昼食



帰路の怒田ノ宿にて

昼食後の帰りは、秋雨前線による雨後のため、キノコが沢山生えていて、興味があって奥駆道の周辺に生えているキノコを採って帰り、友人のキノコ研究家で熊野自然保護連絡協議会会長の南敏行氏に食用キノコを見てもらったが、この時期のキノコは食べない方がよいとの結論であった。

怒田の宿跡に戻り、川島氏より怒田の宿はかつて「知恵の宿」と呼ばれた宿で、林 実利行者がここで下北山村の信者の協力と支援を得て、山小屋を完成させ冬ごもりをして修行した所である。少し下れば水場があるらしい。発掘すれば古銭や埋蔵物のお宝があるかも知れない・・・との説明を受ける。

行仙岳直下の捲き道分岐のチェンソーを置いた所に戻り休憩。捲き道を塞いでいた杉倒木を1本ノコギリで処理する。又、捲き道の杉枝等を除けて歩き易くする。

当初予定していたN.T.Tのルートへの下山については、途中で出会った登山者が倒木は無かったとの報告を受け、今回は省略して行仙宿小屋に戻る事にした。

小屋で児嶋さんが、コーヒーを淹れて下さり御馳走になる。

下山すると山川さん達の熊野組の車が在り、笠捨山捲き道(通信道)点検巡視から戻っていないが帰新へ。東屋岳から国道425号

線へ下山する大阪・奈良組が、登山口に戻ってないので、東屋岳登山口へと走行していると、奥村車(大阪・奈良組同乗)と合流し無事下山を確認して、上葛川經由で新宮に戻る。  
チェンソー同様、私のカメラも機能せず写真を載せることができなかった。

### 行動タイム

新宮7:00→8:25補給路登山口→9:10行仙宿小屋9:35→10:30行仙岳10:40→10:50怒田の宿跡→11:50俱利伽羅岳手前P(昼食)  
12:25→13:00怒田の宿跡13:05→捲き道分岐13:20→14:05行仙宿小屋14:30→15:10補給路登山口15:20→16:55新宮。

(記：濱野、写真：川島)

### 南奥駆道(行仙宿)笠捨山(東屋岳)の点検巡視班

午前6時20分、檀原神宮前駅で奈良の志岐さんに乗せて行仙宿に向かう。今中車と補給路登山口に着くと、先着隊は出発済みで、モノレールが降りてくるのを待っている状態だった。

モノレール終点で上村、奥村両氏の出迎えを受け、薪を少し持って登り始めた。9時18分に行仙宿着、沖崎さんから本日の行動予定の説明がある。



本日の予定説明



行仙宿を出発



最初の倒木

行仙宿から北に俱利伽羅岳までピストンする班と笠捨山を越え東屋岳を経てR25に降りる班(沖崎・梶野・志岐・畑林・生熊千・上村夫妻・今中)と葛川辻から笠捨山捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)を辿り行仙宿に戻る3ルートの台風20号・21号通過後の点検巡視となった。

行仙宿を出発して約10分で最初の倒木があり、山川さんがチェーンソーで切除してください。これ以後、笠捨山山頂までに7本の倒木があったが、太い一本を除いて全て山川さんのチェーンソーが活躍した。

30cmほどの枯れ木倒木は、ゼノアの刃長35cmソーで2か所を切断して排除した。



笠捨山までの倒木処理

すぐ上に笠捨山の頂上が見えるようになったが、山頂は日陰が少ないのと、11時半になっていたこともあり、山頂直下の草付き斜面で昼食にした。

昼食後、葛川辻に向かって下り始める。葛川辻までには3本の倒木があった。



笠捨山迄の倒木処理



笠捨山山頂に到着



葛川辻迄の倒木処理

12時36分に葛川辻に到着、捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)から行仙宿に戻る山川・中村・岩本の3氏を見送り、槍・地蔵岳を経て東屋岳に向かう。



捲き道班と別れる



東屋岳



R25に到着

槍ヶ岳・地蔵岳を越えて東屋岳までの奥駆道には、崩落などの異常はなかった。倒木も無く、通常の状態だった。東屋岳からR25までは、いつものように杉の枯枝がたくさん落

ちていて、各人が棒やストックで除けながら約一時間でR425の登山口に到着、車回送で待つて頂いた奥村・大江・生熊さんに迎えらる。新宮組は2台で帰新へ、奥村車で行仙宿の登山口まで戻った。

単調な下りが続くR425までの途中、足を滑らせて転倒、腰を強く打した。ザックがあつたのになぜ腰のしか所だけが痛いのか、帰つてから調べると、後ろに止めていたウエストベルトの留め具がザックのフレームと腰の間にあり、倒れた時にフレームに押された留め具が直接腰に当たつたことが原因と判つた。

足を滑らさないことが最前提であるが、用具の使い方にも注意が必要である。皆様にご心配をおかけしました。

### 行動タイム

補給路登山口08:40→09:18行仙宿09:33→11:31笠捨山直下(昼食)→12:00笠捨山→12:36葛川辻→13:28地藏岳→14:14東屋岳→15:20国道425号線・東屋登山口。(記:梶野)

### 笠捨山捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)点検巡視班

山川・中村・岩本の3名は、葛川辻手前の笠捨山捲き道分岐を12時35分に出発。15分程歩いた地点に倒木があり、またいで歩行可能で処理なし。直ぐに小枝が巡視路に倒れているのでチェンソーで切断処理。

30分歩いた13時過ぎの地点の沢付近には、倒木が在り巡視路を塞いでいるのでチェンソーで切除。しかし、沢を横切る巡視路が流水によりえぐられて流出している。

50分程歩いた丸木橋のかかった地点では、土石流より巡視路上に土石が堆積、次の所では丸太橋が流されて落ちている。



杉の倒木



チェンソーで倒木処理



沢を横切る巡視路は、土石が流入し丸木橋も流下



連続して丸木橋の破壊、土石の堆積、また山肌がずれて巡視路が無くなっている。

1時間程(3:33)歩いた地点では、沢が大きくえぐられて丸木橋が落ちて渡れず、ロープを持参していたので、ロープを使い下に降りて少し下って、隣の尾根に上って巡視路に戻った。更に10分辿ると土石流により巡視路に堆積している所が2ヶ所連続して在り、また頭上に倒木(太い)もある。



沢が大きくえぐられ橋も流下



栈木の土砂流失

1時間20分歩いた地点には、流水により木の根元から山肌がえぐられた倒木が巡視路を塞ぎ、巡視路もえぐられている。



巡視路に倒れ込む

倒木枝払いしてくぐる

最小限の枝払いを行い、倒木の下をくぐり何とか渡渉できる状態にした。又、道を塞ぐ枝の多い倒木は、一部を切除してどうか通過する。今後の雨の状況により通行不能になる恐れもあり得ると思う。

14時10分、No24鉄塔付近に到着。巡視路の肩の土砂が流出している。

鉄塔から10分歩いた地点には、土石流により栈木丸太のズレ及び巡視路の土砂流失があった。行仙宿に立寄り、15時半頃に登山口に戻ると、竹中・高階さんが、梶野・志岐・今中さんを迎えに行った奥村車の到着を待機されていた。



塞ぐ倒木の一部切除



No24鉄塔付近巡視路



栈木丸太のズレ

点検巡視の所感として、笠捨山捲き道(鉄塔巡視路)は、以上の状況であり、大変危険な箇所も何ヶ所か有り、現状では登山者は通らない方がいいと思います(山川さん)。

台風20号の豪雨により、登山口横の小谷がガードレール高さ迄岩で埋まった事から、台風20号の豪雨により平成23年の豪雨時に匹敵する巡視路の崩落・崩壊になった様で、当面通行回避の標識を設置する必要がある。復旧にはかなりの労力が必要になるが少しずつでも、復旧に努めて行きたいと思えます。

(記：岩本)